



朝日学園・みつ朝日学園連合PTA広報誌

# Trinity

トリニティー

Vol.8  
2017



## CONTENTS

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1— はじめに・ごあいさつ | 17— 表彰            |
| 2— 学園歌        | 19— インタビューで知る朝日学園 |
| 3— 園歌・校歌特集    | 21— 行事一覧          |
| 5— 幼稚園        | 23— 数字で見る朝日学園     |
| 9— 小学校        | 25— 朝日学園教職員一覧     |
| 13— 中等教育学校    |                   |



<http://www.asahijuku.ac.jp>

朝日学園

## はじめに

平素は、朝日学園・みつ朝日学園連合PTAに対しまして、ご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

「目に見えるもの」「目に見えないもの」どちらが大切か。皆様どう思われますか。例えば「夢」は「気持ち」であり、目に見えないものであります。この熱い気持ちを強く持ち、努力も含め持続させることによって「夢」の実現が叶い目に見えるものとして世の中に存在すると私は考えております。この目に見えないものの空想こそが大切ではないのでしょうか。目に見えるもので何ごとも判断をしてみた結果が、今の社会の様々な問題を引き起こしている一因ではないかと思われます。約70年前にすでに小説「星の王子さま」のセリフに「ほんとうに大切なものは、目に見えないんだよ。」という有名な言葉があります。この目に見えないものを自分のものさしで計れるように、子供たちには大志を抱かせる責任が親である我々大人にあるのではないのでしょうか。難しい責任ではありません。親として大人として人間として、一人ひとりが自信をもって光り輝けば良いのです。

このトリニティー第8号が発刊できたのも、担当である小学校PTA執行部の皆様を筆頭に、3校園のPTA役員の方々や教職員の先生方、関係各位のご尽力の結晶です。3校園の目に見えないものの連携がいっぱい凝縮したトリニティー第8号。是非、ご一読頂き朝日学園・みつ朝日学園になお一層のご理解を深めて頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA会長 岸 学



## ごあいさつ

学園長 烏海 十児

学園に関係のある在籍生・卒業生・保護者・教職員みんなの気持ちを繋いでいく「トリニティー」が8号を迎えることになった。人間で言えば8歳、つまり幼稚園児の時期を過ぎて、小学校中学年の児童になった訳である。元気一杯で将来が大いに楽しめる時期ではないだろうか。

創刊からの8年間、連合PTA広報誌として生まれ、育ったトリニティーの制作・発刊のために努力を重ねてこられた各年度の幼・小・中等PTA、関係者の皆さんに深甚の敬意と感謝を申し上げたい。

このように継続していくためには、「不易流行」ということが大切になる。「不易流行」とは、良き伝統や本質的なものは不変で継続し、変化させるべきものは大胆に変化させるべきという意味である。トリニティーの発行は校園の更なる理解の架け橋として、学園グループをつないでいくよう是非とも継続していただきたいが、その内容や対象などは次々と変化していても良いのではないだろうか。発刊の労を労いつつ今後一層の充実と発展を願います。

一方、学園・学校園の方も永遠に変わることのない建学の精神である「個性を伸ばすハイレベルの教育」は、朝日学園・朝日塾の良き伝統として継続するべきだが、教育の方法や経営のあり方などは、時代の変化や人材のありようによって大胆に変化させ、恐れず挑戦し続け学校園の一層の内容充実・発展を図るべきではないかと考えている。

# 学園歌「朝日をあびて」

作詞：朝日学園・みつ朝日学園連合PTA  
作曲：園田 幹子 編曲：金丸めぐみ

さあ 歩きだそう はるかな道 力いっぱい この瞬間を  
ひとりの力 小さくても 手をつなぎ 仲間を信じて

海にむかって とびたつ鳥 はるかかなたに 未来があると  
信じる勇気くれたのは ここにいる仲間  
ありがとうの気持ちをこめて 自由の空へ とびたて  
こころに大きな華を咲かせて すばらしい未来へ すすもう

海にむかって とびたつ鳥 新たな大地に 未来を創る  
豊かな知識くれたのは ここにある学びや  
ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう  
朝日をあびて 輝く笑顔  
ありがとう We are blessed with everything

ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう  
朝日をあびて 輝く笑顔  
ありがとう We are blessed with everything



子供たちが実際に歌ったものをYouTubeでお聞き  
いただけます



## Trinity とともに誕生

学園歌『朝日をあびて』は、トリニティーと共に平成21年に誕生しました。

それは「朝日学園・みつ朝日学園の子供たちが共通して歌える歌を作りたい」という保護者の思いが出发点でした。学園歌の作成にあたっては連合PTAでご検討いただき、歌詞は学園内の公募で、作曲は学園の音楽教育に携わる先生にお願いすることになりました。

歌詞を募集すると、学園への熱い思いが溢れるような作品が多く寄せられました。どの作品もすばらしく、とても一つに絞ることなどできませんでした。そこで、連合PTAの方々と相談し、寄せられた歌詞の中の言葉をつむぎあわせて作ることにしました。言葉に込められている思いを大切にしながら、歌詞になるように掛け合わせていくという作業は大変なご苦労だったと聞きましたが、その結果、子供たちの未来を連想させるような素晴らしい歌詞が完成したと思います。

「海にむかって とびたつ鳥」の部分は、海外に目を向け、積極的に関わってほしいという私の思いが反映されています。「海にむかって」には未知の世界に果敢に挑戦する人材を

育成するという教育の在り方と、飛び立っていった「鳥」たちがいつでも帰ってこられる場所として学園が存在するという意味も込められています。作曲は学園の音楽教諭である大森（旧姓園田）幹子先生が担当され、歌詞のイメージをもとに、子供たちがテンポ良く歌える曲になるよう時間と心をかけて作っていただきました。

市民会館での音楽発表会のフィナーレで初めて学園歌が合唱された時、歌詞のもつ意味の深さと美しい曲調、そして何よりも思いのこもった歌声に会場が感動でいっぱいになりました。客席で涙する保護者の姿を幾人も見かけて、私も感極まりました。子供たちを愛する保護者が中心となって作成した歌だからこそ伝わるものが大きかったのでしょう。

現在では、学園の音楽発表会はもとより、小学校の卒業式や各種行事などでも歌われております。私は歌を聴くたびに、学園創立時の気持ちを新たにするとともに、見事に歌い上げる子供たちの姿に学園の確かな未来を重ねております。

学園歌がこれからも学園に関わる皆様の心の絆となり歌い継がれていくことを願ってやみません。

(鳥海十児)

# 特集 園歌・校歌

歌に込められた思い、そしてちょっと意外な誕生秘話。  
鳥海理事長・曾根先生に当時のことを聞いてみました!

## 朝日塾幼稚園 園歌

作詞：鳥海 十児  
作曲：柴田 公平

- 1 きょうも げんきに Good morning!  
あかるいこえが きこえます  
なかよく うたう なかよく はなす  
あさひじゅくのようちえん
- 2 あすも げんきで Good bye! Bye!  
たのしいこえが ひびきます  
なかよく つくる なかよく えがく  
あさひじゅくのようちえん



園児たちが実際に歌ったものをYouTubeでお聞きいただけます

幼稚園が開園したのは1981年だが、実は、園歌の誕生はそれ以前にさかのぼる。幼稚園の前身が塾の幼児教室だったことはご存知だろうか。その朝日塾幼児教室の卒業式に間に合わせて作ったので、1978年制定ということになる。

朝日塾幼稚園は、幼児教育への強い思いと幼児教室に通う保護者の希望をもとに、理念を受け継いで開園した。開園の際、その幼児教室で歌われていた歌を、幼稚園でも歌い継ぐことに決めていた。「あさひじゅくのようちえん」の「の」はその名残なのだ。

歌詞の一番の特徴は、やはり英語が入っていることだろう。将来訪れるであろう国際化を見据え、幼児でも親しめる英語のフレーズを入れた。今でこそ国際性の重要さは周知のことだが、当時そんな雰囲気はまったくなかった。作詞にあたって様々な幼稚園の園歌を調べたが、英語が入ったものなどなかったように記憶している。

歌詞中の「うたう」「はなす」「つくる」「えがく」「歌う」「話す」「創る」「描く」という言葉は、それぞれ、「音楽」「国語」「図工の工」「図工の図」を意識した。音楽を楽しむ心、言語力、情操面の豊かな育ち、自ら創意工夫をする力など、これから創る朝日塾幼稚園では、そういう力を身につける教育をしたいという、熱い思いと情熱を込めた。

作曲は旧知の仲であった作陽音楽大学の柴田公平氏にお願いした。朝日塾にふさわしい曲調を、とかなり悩まれたようだったが、できあがった曲はご存知のように素晴らしいものだった。自分の考えた歌詞がメロディに乗っているのは不思議な気分だった。

園歌の誕生より早36年、これからも長く歌い継いでほしいと強く願う。

(鳥海十児)

## 朝日塾小学校 校歌

作詞：朝日塾小学校  
作曲：柴田 公平

- 1 若草萌ゆる吉宗に  
叡智は薫る芳しく  
自律のこころ育てよう  
ぼくらはみんな自由人  
Thinking by ourselves  
Freedom for all  
あぁ、朝日塾小学校
- 2 水面に映える学舎に  
世界のうたがこだまする  
平和の願い伝えよう  
ぼくらはみんな地球人  
Thinking for the world  
Peace for all  
あぁ、朝日塾小学校
- 3 新風わたる丘の上  
希望の光さすところ  
輝く世紀へはばたこう  
ぼくらはみんな未来人  
Thinking for the future  
Knowledge for all  
あぁ、朝日塾小学校



児童たちが実際に歌ったものをYouTubeでお聞きいただけます

小学校の開校式は1993年に行われた。しかし、このとき校歌は存在しなかったのだ。塾と幼稚園経営を行いつつ開校準備をしていたため、とてもじゃないが手が回らず、いっそ開校後に学校を見ながら作るほうが良いものができるかと踏んだからだ。

歌詞はあえて一般から公募した。関係者の目ではなく、外部の目から見た朝日塾小学校を知り、大切にしたいからだった。条件は「英語のフレーズを挿入すること」であった。朝日塾の理念を書いた広告を新聞に載せたところ、こちらの予想以上の数が届き、嬉しい悲鳴をあげたことを覚えている。

審査の結果、一作が採用された。聡明な生徒の姿や、豊かな緑に囲まれた校舎の様子が目に浮かぶような詞が決めた。それを基として、さらに朝日塾らしさにこだわって、音楽とネイティブの英語の先生を中心に歌詞を仕上げた。幼稚園同様、英語を入れ込むことは譲れないこだわりであった。英語が必須とされる時代が近い将来必ずやってくる、そう確信があったからだ。朝日塾で考えてほしいこと、大切にしてほしいものを短い英文にして盛り込んだ。

作曲は幼稚園歌でもお世話になった柴田氏にお願いした。期待以上に、我々の熱い思いを美しい旋律に乗せてくださった。

こうして1993年7月28日、朝日塾小学校校歌ができあがった。児童が懸命に歌う姿を目にするたびに目頭が熱くなる。

(鳥海十児)

## 朝日塾中等教育学校

## 校歌

作詞：曾根 薫風

作曲：岸田 敏志

編曲：本山 智恵

1 麗しき 御津の山脈<sup>やまなみ</sup> 翠の光 煌く大地  
 青春の夢 抱きて集い 共に大志を 育まん  
 The Rising Sun The Rising Sun 朝日 朝日塾  
 昇る学園 朝日塾

2 水清き 宇甘の流れ 蜩の光 新樹の岡辺  
 青年の夢 艱難越えて 健き心を 養わん  
 The Rising Sun The Rising Sun 朝日 朝日塾  
 光る学園 朝日塾

3 空碧き 紙工の里に もみじの光 彩なす山河  
 青雲の夢 美空に馳せて 共に世界に 翔かん  
 The Rising Sun The Rising Sun 朝日 朝日塾  
 永久<sup>とわ</sup>の学園 朝日塾  
 永久の学園 朝日塾



岸田敏志氏が歌ったものをYouTubeでお聞きいただけます



音楽会フィナーレ(市民会館)

平成19年4月14日、御津スポーツパークで、全国各地から集まった100人を越える来賓や報道陣の見守る中で本校の開校式が華やかに挙行されたが、校歌は無かった。

ある日、英語科の松岡幸夫先生から「一期生が卒業するまでには是非校歌が欲しい。先生は俳句を詠むのだから作詞をしてもらえないだろうか」と言われた。冗談とも思えず、私も校歌は欲しかったので作詞に取りかかった。翌年4月正式に「校歌制定委員会」なるものが発足した。11月末に審査委員会が開かれ、私の作詞したものが採用されることになり作詞者名を「曾根薫風」とすることで正式に歌詞が決定した。

校歌の大きなテーマは「夢一途に」である。学校の周辺は自然に囲まれた田園なので、歌詞の1行目は本校を取り巻く自然を歌い、2行目にテーマを置き、3行目以下学園の命名の由来を入れた。韻律は五七調を基盤とし対句を駆使した。英語表現は、幼稚園小学校の歌詞にも英語がある朝日学園の方針に沿った。

歌詞の一番は、季節は春。岡山駅からスクールバスで勝尾峠を越えてくる通学生の視点に立った山の景を詠み、大きな夢と友情を共に育てたいという願いが込められている。

二番は夏。津線金川駅からの通学生の視点に立った川の景を詠み、理想に向かって、苦難を乗り越えて夏の太陽のように逞しくなって欲しいという願いが込められている。作詞の上ではこの二番に一番苦労した。特に「青年の夢 艱難越えて」の部分には一ヶ月ほど悩み、多くの先生方から意見も伺った。「困難」ではなく「艱難」であることにこだわった。

三番は秋・冬で、校地内で寮生活をしている生徒の視点に立った景で空を詠み、「国際化」に基づき、世界に飛躍する人材の育成を願っている。また当地は蜩ともみじの名所であるため、それぞれ地名と共に詠み込み、さらに朝日のイメージから、太陽が「昇る」・「光る」・「永久の」という言葉を、学園の有り様に重ねて詠み込んでいる。

作曲は岡山県出身のシンガーソングライター岸田敏志氏(1979年テレビドラマの挿入歌として作曲した「きみの朝」がオリコン1位、80万枚を売り上げた)に頼むことになった。岸田氏は校歌作曲は初めてだがと言いながらも、快諾してくださった。偶然だが岸田氏は高校の私の後輩にあたり、初対面でそのことを話すと岸田氏も驚き、お互い不思議な縁を感じながら良いものを創ろうと誓いあった。「明るく、たくましく、歌いやすい曲になれば幸いです。」とだけ告げてすべて岸田氏にお任せした。

年が明けて平成21年1月16日、岸田氏を囲んだ会食の席で、学園長が学園創設の夢を熱く語られた。するとそれを聞いていた岸田氏は突然「麗しき御津の山脈・・・」と歌い出した。お酒が入っていたので余興かと思っていたところ、学園長の話聞いていて曲のイメージが急に沸いたのだという。我々は呆然としてその様子を見つめていた。完全に一番を歌いきると、思わず拍手が起こった。作曲はこのようなされるのか。さすがプロだと思った。良いものをみせてもらった。

すぐに「校歌制定委員会」が校長室に集まり、ギター演奏による弾き語りを初視聴した。聞き終わり、皆静かな感動に浸った。

その後、音楽室で片山(旧姓中山)恵理先生のピアノ曲の初演奏を聴いた。編曲は片山先生の友人の本山智恵さん、とても洒落ていた。そして平成21年3月16日の中学の卒業式で生徒が歌うのを感動的に聴いた。初めて聴いた来賓の方もずいぶん褒めておられた。

平成21年7月、岡山のルネスホールであった岸田氏のコンサートに行くと「私は朝日塾の校歌を作曲しました」と満員の観客の前でトークしてくれた。たった一言であったが、観客から拍手があり嬉しく誇らしく思えた。

平成22年1月29日、一期生の卒業を祝って、井原守元校長の手による校歌額が完成し体育館に掲げられた。

こうして校歌完成までには多くの人々が関わりやっとなんかできなかった。「永久の学園朝日塾」と何時までも歌い継がれて欲しいと願わずにはいられない。

(曾根 薫)